

トランジションタウン鈴鹿について

市民の有志が、自然と共生できて持続可能な環境づくりとともに、誰でも家族のような親しさで暮らせる街づくりを進めています。2001年に始まった、アズワンネットワークの鈴鹿コミュニティを母体に、子ども・青年からシニアまで、世代を超えてつながる活動を続けてきています。トランジションタウン鈴鹿としては、2013年8月から活動をスタートしました。

すずかの里山

近隣の放置された里山を借りて始まったプロジェクト。下草刈りをしたり、木の枝にブランコをつるしたり、子どもたちが森で遊べるようになって、親子企画も活発になりました。

炭窯づくりの名人とも縁ができて、炭窯も完成し、市役所の協力を得て、地域の荒れた里地を伐採し、炭の原木として活かす活動も活発になっています。

街のはたけ公園

鈴鹿の市街地に隣接した、地域の人たちが農の豊かさに触れる憩いの場になっています。果樹をやりたい人が果物をつくり、花を咲かせたい人が苗を植えています。子育て世代の親子を応援したいというシニアのチームが、年間通して、トウモロコシ、サツマイモなどの野菜の種をまき、育て、採って食べる企画を展開しています。

公園には、広場があり、カマド・ロケットストーブ・井戸水・エコトイレなどがあり、薪で料理をする野外食会場になり、災害時には、避難場所にもなります。

コミュニティビジネス

人が人らしく生き生きと、能力を発揮し、満ち足りた豊かな生活を送るために、おふくろさん弁当、SUZUKA FARM、鈴鹿カルチャーステーションなどのコミュニティビジネスを運営しています。なかでも「おふくろさん弁当」は、60名を超えるスタッフがいがながら、上下関係や規則や命令・服従がない会社として注目され始めています。

理想の暮らしを語る会

自分らしく古い、最後まで自分らしく生きれる地域社会を目指して、老いや死を考えたり、話し合ったりする会です。お互いを尊重し、理解しながら、何でも話せる、話したくないときは話さなくてよい、それぞれ思うことが違っていても、同じ場で同じ時間を過ごして、何か余韻が残る、また来たいと思うような場になっています。

たのしいエネルギー研究会

有志でエネルギーに関する活動を楽しんでいます。ソーラー竹ランプづくりなど、自然エネルギーにつながるワークショップなどを開催しています。